

中村隆俊会長が 「第15回 渋沢栄一賞」を受賞!

Eichi Shibusawa Award

近代日本の産業経済の発展に大きく貢献した渋沢栄一氏の功績を称えると共に、その精神を受け継ぐ全国の経営者へ贈られる「渋沢栄一賞」の第15回受賞者として、このたび、戸田中央医科グループの中村隆俊会長が決定いたしました。

受賞理由

優れた経営面

- ・創業以来、1都4県に114か所の関連事業所を展開する売上高約1,000億円に上る国内最大級の医療グループに成長。
- ・治す医療から治し支える医療へと発展させ、さらに、地域包括ケアで求められる医療・介護を提供し、トータルヘルスケアネットワークを形成。
- ・プレストケアセンター、腎センター、心臓血管センター、全国初の嗜好品外来の開設など、特徴のある専門科を多く保有するとともに、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の埼玉県内初の導入など最新鋭機器による医療を推進。

地域及び社会貢献面

- ・個人で青少年育成のための基金の設立を目的に、多方面への多額の寄付を実施。
- ・2007年から戸田市と共同で「ピンクリボンウォークIN戸田市」を開催。当初5%であった乳がん検診率を52.7%にまで引き上げた。
- ・1974年から継続している献血活動への貢献や、スポーツ振興へも尽力。

なお、表彰式及び祝賀レセプションは、2月14日(火)にさいたまソニックシティ・国際会議室で開催される予定です。



プロフィール

昭和2年10月25日、北海道瀬棚郡瀬棚町(現・久遠郡せたな町)に3男4女の次男として生まれる。昭和25年、北海道大学医学科を卒業後に上京し、東京医科大学にインターンを経て入局。昭和37年8月に戸田中央病院(現・戸田中央総合病院)を開院し、院長に就任。現在、戸田中央医科グループの会長として一都四県下に28の病院と6つの老人保健施設のほか、特別養護老人ホーム、クリニック、健診センター、訪問看護ステーションなど、合計114か所の関連事業所を展開(平成28年6月1日現在)。平成12年、勲四等旭日小綬章。平成28年、戸田市名誉市民(第1号)。

渋沢栄一賞とは

趣 旨：多くの企業の設立や育成に携わる一方で、福祉や教育などの社会事業にも尽力した埼玉県深谷市出身の渋沢栄一氏の生き方や功績を顕彰するとともに、今日の企業家のあるべき姿を示すため、渋沢栄一氏の精神を今に受け継ぐ全国の企業経営者に「渋沢栄一賞」を贈る。

対 象：渋沢栄一氏の精神を受け継ぐような企業活動と社会貢献を行っている、地域に根ざした全国の企業経営者。

選考方法：渋沢栄一賞選考委員会での審査を経て、埼玉県知事が決定。

賞の創設：平成14年度

受賞者数：35名(平成27年度まで)



Toda
Medical Group

戸田中央医科グループ



2017年(平成29年) 1月11日 水曜日

きょうは何の日

鏡開き



埼玉新聞社 〒331-8686 さいたま市
北区吉野町2-282-3
本社代表 048-795-9930

渋沢栄一賞に中村氏

戸田中央医科グループ会長



中村隆俊 会長
(県提供)

県は10日、優れた経営や地域、社会へ貢献した全国の企業経営者を表彰する「渋沢栄一賞」に戸田中央医科グループ(戸田市)の中村隆俊会長

ら3氏を決定したと発表された。表彰式は2月14日に開催される。

受賞者はほかに、金属表面処理などを行う日本パーカライジング(東京都中央区)の里見菊雄名誉会長と、レンコン加工品製造業のマルハ物産(徳島県松茂町)の林香与子会長。

戸田中央医科グループの中村会長は、1962年の創業以来、1都4県に114カ所の関連事業所を展開し、国内最大級の医療グループに成長させた。腎センターや全国初の嗜好(しこう)品外来など、特徴のある専門科を多く持つ。2007年からは戸田市と協力し、乳がん検診率を5%から52.7%に引き上げた。日本パーカライジングは、65年の台湾における中日金属工業設立の中心となり、その後も積極的に海外事業を展開。レンコン加工業界のパイオニアであるマルハ物産は、耕作放棄地の減少や地域農業の振興に貢献している16面に
(坂本圭)

賞一栄沢澁

「地域のため頑張る」

戸田中央医科の中村さん

澁沢栄一賞の受賞が決まった戸田中央医科グループ会長の中村隆俊さん(89)は10日午後、自身が経営する戸田市本町の戸田中央総合病院で「大変つれい。身に余る光栄。これからも老骨にむち打って地域のために頑張ります」と

力強く語った。院内の廊下で、歩行器を使っただけで往復約50分を歩くとリハビリを終え、元気がいっぱいになった。リハビリでは歌うことも多く、この日は母校・北大の寮歌「都ぞ弥生」のCDを聞きながら歌った。

「人の世の清き国ぞとあしがれぬ」。最後はじつと聞き入っていたがニクラーク博士の少年よ大志を抱け、の後があるのを知っていますか」と言っ。「フイク、ジス、オールドマン。私のような年寄りのごとく」と言っ「なんだ」と笑顔になった。



「老骨にむち打って地域のために頑張る」と受賞の喜びを語る中村隆俊さん。10日午後、戸田市の戸田中央総合病院

1962年、戸田市で29床で開業して以来、救急搬送を率先して受け入れるなど地域活動に貢献してきた。会長も務めた戸田ロータリークラブが74年から続ける同病院での夏の献血活動は、これまでに献血者が1万5千人に上り、毎回県内トップの献血量だ。2007年から戸田市と協働して取り組む乳がん撲滅のピンクリボン運動では、若い医師や職員ら病院をあげて参

加する運動に育てた。これが受診率で県内トップクラスの52・7%達成につながった。50年に北大を卒業後に上京。青年医師時代、兄の故哲夫さん(板橋中央医科グループ会長)、弟の秀夫さん(上尾中央医科グループ会長)の兄弟3人で、当時小学5年生だった美空ひばりさんが中学1面参照。(岸鉄夫)

を卒業するまで家庭教師を務めた。

「兄弟でひばりを守った。

でも、彼女の初恋の相手は私だ。アイスケイトも私が教えた」が自慢の種。座右の銘は「生涯現役」。同時に「生涯独身」とも言い、若い看護師たちの笑いを誘っている。